

第36回ASTAP総会結果報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

1. はじめに

2024年5月20日(月)～24日(金)の日程で第36回ASTAP総会(ASTAP-36)がバンコク(タイ)において開催された。

ASTAPは、アジア・太平洋地域におけるICT分野の標準化に関する地域協力を確立し、グローバル標準化活動に貢献すること、ICT分野の研究、分析を通じてAPT(Asia-Pacific Telecommunity)メンバー間における知識と経験を共有すること等を目的としている。

ASTAP-36には、APT加盟国38か国のうち、18か国から152名が参加、日本からは、NTT、KDDI、NICT、NEC、OKI、TTC、総務省等より計23名の参加登録があった。なお、会合の一部及びインダストリーワークショップはオンラインからも参加可能なハイブリッド形式での開催であり、全体では113名、日本からは14名が物理参加した。

2. 第36回ASTAP総会の結果概要

○インダストリーワークショップ

初日の5月20日(月)には、企業の取組みを紹介するインダストリーワークショップがASTAP副議長の岩田秀行氏(TTC)を中心に開催され、ITU、中国、韓国、マレーシア、日本から19名が登壇し、特に多くの日本産業界からの講演者の登壇が注目を集めた。

今回は、「サプライチェーンサイバーセキュリティ」「中小企業(SME)」及び「標準化格差解消(BSG)」に関する3セッションが設けられた。各セッションの我が国からの講演者は以下のとおり。

セッション1：サプライチェーンサイバーセキュリティ

「日本における自動車産業のサプライチェーンセキュリティ」：古田朋司氏(日本自動車工業会)

「ISAC Japanの紹介」：和田昭弘氏(ISAC Japan)

「大日本印刷のサプライチェーンセキュリティへの取組みと課題認識」：谷健志氏(大日本印刷)

セッション2：中小企業(SME)

「UAVによる大気汚染物質の測定」：岩附直子氏(中京電気)

「屋外用ワイヤレスフレキシブル・メッシュ・ネットワークの説明」田村勉氏(AiTrax)

セッション3：「標準化格差解消(BSG)」

TSBの加藤彰浩氏からNational Standardization Secretariat(NSS)の設立に関する説明があった後、ITU-Tからの中継で尾上誠蔵TSB局長によるKeynote Speechが行われた。



■図1. ワークショップで講演する尾上TSB局長

その後、標準化格差解消(BSG)に関して加藤氏、TTC吉野絵美氏をはじめとする日本、韓国、マレーシアからの有識者によるパネルディスカッションが開かれ、各国におけるBSGへの取組みに関する意見交換が行われた。

○ASTAPの組織体制

ASTAPの検討体制は、11の専門家グループ(EG)と、技術分野ごとに専門家グループを取りまとめる3つの作業グループ(WG)で構成されている。各専門家グループからの成果文書は作業グループでの承認を得た上で、プレナリにおいて最終審議が行われる。

今回合会においては、ASTAP会合においてWG NS(Working Group Network and System: ネットワークとシステム)副議長及びEG SACS(Expert Group Seamless Access Communication Systems: シームレスアクセス通信システム)議長としてご活躍いただいていた小川博世氏(NICT)からの役職者の交代のお申し出をいただき、WG NSについては中島和秀氏(NTT)が副議長に、EG SACSについては菅野敦史(NICT)氏が議長に就任した。

そのほか、EG FN&NGN(Expert Group Future Network and Next Generation Networks: 将来網と次世代ネットワーク)の副議長に中島和秀氏(NTT)が就任した。前

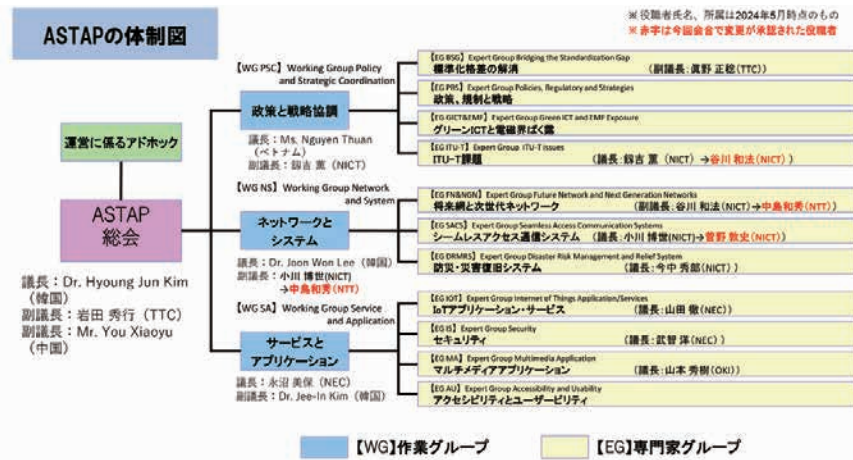


図2. ASTAPの体制図 (敬称略)

回までEG FN&NGN副議長を務められていた谷川和法氏 (NICT) は、釘吉薫氏 (NICT) に代わりEG ITU-T (Expert Group ITU-T Issues : ITU-T課題) の議長に就任した。

ASTAPの体制と我が国からの役職者を図2に示す。

○日本企業・研究機関からの寄書に関する検討

日本企業・研究機関からの寄書に関する主な検討結果は、以下のとおり。

・報告書等の完成・改版

[提案者：TTC、NEC、NTT、OKI] 2023年に実施された「APTトレーニングコースの報告書案」を提出した。本提案に記載された研修報告は高い評価を得て、これを早期に公開・共有する必要性が共有された。提案では、本来、新規workplanを作成し、その後レポート作成とする提案をしていたが、その進め方では時間がかかるとの懸念が示され、APTホームページへの掲載を含め、APT事務局と早急な対応をとることとなった。

・質問票の発出

[提案者：OKI] 前会期に発出された「アジア太平洋地域におけるメタバース活用事例のアンケート」及び「COVID-19におけるアジア太平洋地域のCDNサービスに関する問題点と要望のアンケート」の結果をEG MA (Multimedia Application: マルチメディアアプリケーション) で行い、更なる回答結果収集のために第2版のアンケートを発出することを提案した。本件は承認され、質問票が発出されることとなった。

[提案者：OKI] 前会期に発出された「Beyond 5G時代の将来のネットワークサービスに対する課題と要求のアンケート」の結果をEG FN&NGN (Future Network and Next Generation Networks : 将来網と次世代ネットワーク) で

行い、更なる回答結果収集のために第2版のアンケートを提出することを提案した。本件は承認され、質問票が発出されることとなった。

・ITU-Tでの活動報告

ASTAP総会をITU-T関係活動の活性化の機会と捉え、KDDI宮地氏 (ITU-T SG9議長) 及び本堂氏 (SG3副議長) が活動状況アップデートを行った。

○他国企業・研究機関からの提出文書に対する審議の概況

マレーシアより6件、中国より3件、韓国より15件、インドネシアより6件、タイより1件の寄書が提出された。いずれも地域勧告の提案ではなく、事例の紹介、レポート作成または改版の提案、ベストプラクティスを収集したガイドライン等の作成及びレポート・ガイドライン作成のためのアンケートを実施する提案であった。

主な議論の内容は以下のとおり。

[提案国：インド] 環インド洋諸国に対するITU-T SG13地域グループ創設の提案 (INP-04, ITUからのリエゾン文書) 背景として、3月のSG13会合でインドから当該地域グループ設立の提案があり、日本からAPT及びその他地域会合との作業重複による標準化作業の煩雑化の懸念を示し、インドから重複がない活動にする旨コメントがあったところ、各地域会合に提案のリエゾン文書を送ることになった経緯がある。

本会合では、日本、韓国、オーストラリア、マレーシアから懸念を示すコメントがあった。結果、ASTAPからSG13へは、地域グループを立ち上げることが望ましくない旨リエゾン文書の返信をすることになった。本リエゾン文書は7月に開催されるSG13会合において審議され、地域グループ

創設要否が決定される予定である。

【提案国：韓国】 電磁波の人体に与える影響に関する新規作業項目

携帯電話基地局からの電磁波が人体に与える影響に関する提案であり、ITU-Rとの作業重複が想定されることを日本から指摘し、ITU-Rの作業と重複しないように進める旨コメントがあり、問題ないとされ、作業開始が承認された。

○主な出力文書

最終プレナリで承認された主な出力文書は表のとおりである。3件の新規レポート、3件のレポート改訂、7件の質問票及び1件のリエゾン文書について合意した。

○Task Force on ASTAP Future Directionの結果と今後の活動

前回のASTAP-35において設置が承認されたASTAPの将来に向けた検討タスクフォース（Task Force on ASTAP Future Direction）については、会合期間中に2回のセッションが設けられた。セッション内では、Opening Plenaryにおいて行われたこの1年間の検討結果の報告を踏まえ、主

に今後の活動についての検討が行われた。

その結果、Terms of Reference (ToR) と作業スキームの改訂を行った上でのタスクフォース会期の1年延長が決定し、議長には今会期議長のSeungyun Lee氏が再任した。また、以下の3つのタスクフォースワーキンググループの設置が提案され、それぞれの議長の指名が行われた。

WG1: Working Method, Structure

(議長: Kihun Kim氏、韓国)

WG2: Capacity Building, Deliverables

(議長: Dao Ngoc Tuyen氏、ベトナム)

WG3: Industry Engagement, Tools for Collaborations

(議長: 岩田秀行氏、日本)

Closing Plenaryでは上記のWGの活動への参加が呼び掛けられるとともに、今後の活動はASTAP-37で報告されることが決定された。

○今後の予定

次回会合については、日程、開催地ともに確定していない。開催地についてはバンコク以外のタイの都市での開催を検討するとし、スケジュールは改めて通知される予定である。

■表. ASTAP-36において承認された主な出力文書

文書番号	タイトル	担当WG
新規レポート		
ASTAP-36/OUT-12	A Guideline on Best Practices and Environment Friendly Policies for Effective ICT Deployment Methods	WG PSC
ASTAP-36/OUT-16	APT Report on the Guidance for 5G Network Sharing and Co-construction	WG NS
ASTAP-36/OUT-19	Final draft of APT Report on Requirements and Framework of IoT older person care solution	WG SA
レポート改訂		
ASTAP-36/OUT-11	Revised APT Report on Handbook to Introduce ICT Solutions for the Community in Rural Areas	WG PSC
ASTAP-36/OUT-13	Revised APT Report on Asia-Pacific Regional Activities on Human Exposure to EMF	WG PSC
ASTAP-36/OUT-14	The 1.1 amendment of Status Report on Standardization Activities for e-Waste and Rare Metals	WG PSC
ガイドライン改訂		
ASTAP-36/OUT-20	Guidelines for Secure Use of IT Devices and Services (Version 2.1)	WG SA
質問票 (Questionnaire)		
ASTAP-36/OUT-17	Questionnaire for Problems and Requirements to Future Network Services in beyond 5G Era (2ND EDITION)	WG NS
ASTAP-36/OUT-18	Draft Questionnaire to Survey the Problems and Requirements on CDN Services in Asia-Pacific Region in Covid-19 (2ND EDITION)	WG SA
ASTAP-36/OUT-24	Questionnaire for Metaverse Use Cases in Asia-Pacific Region (2nd Edition)	WG SA
ASTAP-36/OUT-25	Questionnaire on Status of the APT Countries' Mobile Accessibility	WG SA
ASTAP-36/OUT-26	Questionnaire on the current status of the APT Countries' Relay Services for Accessible Emergency Communication	WG SA
出カリエゾン文書		
ASTAP-36/OUT-15	Reply liaison statement to ITU-T SG13 on proposal for establishing of the new SG13 Regional Group for Indian Ocean Rim Countries	WG PSC
ASTAP-36/OUT-21	Liaison Statement to ITU FG Metaverse	WG SA